ランチョンセミナー3　12月14日（土）11:30～12:30　第3会場

共催：アッヴィ合同会社

当院における過去の肝炎ウイルス陽性者拾い上げ活動と肝炎検査結果説明構想について

鎌田　将矢
仙台オープン病院　診療支援部　臨床検査室

肝炎治療の進歩は著しく、HCVに関しては高い確率でウイルスを排除することが可能になり、HBVに関してはワクチンの開発やHBV-DNAをコントロール出来る薬剤が登場した事がきっかけになり、治療対象とならない患者は限られるようになりました。このような状況のなかで、現在の肝炎治療のフェーズは、潜在化しているウイルス性肝炎陽性者の掘り起こしを行い、スムーズに受診・受療させることになっております。一方、医療機関においては入院前や手術前等に行われる肝炎ウイルス検査結果について、一部受検者に正しく伝えられていない可能性が示唆されており、患者が適切な治療を受けられないケースがでてきています。このようなケースでは患者が肝炎由来の肝細胞癌になった場合、肝炎のウイルス検査を実施した医療機関側を患者が訴えるようなケースが散見されるようになりました。今回はウイルス陽性患者をしっかり治療に結び付ける取り組みとして、当院における多職種連携による過去の肝炎ウイルス陽性患者拾い上げ活動の事例と、今後の肝炎検査結果説明構想についてご紹介致します。

B型肝炎とC型肝炎治療の現在地～患者の掘り起こしも含めて～

岩田　朋晃
仙台市立病院　消化器内科

B型肝炎及びC型肝炎は世界的に重要な健康課題であり、それぞれ異なるウイルスによる慢性肝炎です。B型肝炎治療においては核酸アナログ製剤が主流であり、抗ウイルス作用を通じてウイルスの増殖を抑制し、病勢の進行を防止します。一方、C型肝炎治療においては、直接作用型抗ウイルス薬が中心となり、短期間の内服でウイルスの除去を目指すことができるようになりました。C型肝炎治療ガイドライン（第8, 2版）のC型肝炎に対する抗ウイルス治療の対象においては、非代償性を含むすべてのC型肝炎症例が抗ウイルス治療の対象となり、年齢、ALT、血小板にかかわらず、すべてのC型肝炎症例に対して抗ウイルス治療を検討することが推奨されています。そのため現在は患者さんのウイルス肝炎患者の掘り起こしも重要となっており、潜在化している患者をいかに治療に結び付けるかが課題となっています。今回はウイルス性肝炎の治療内容や治療効果、また当院のウイルス性肝炎陽性者・院内受診勧奨システムを含めご紹介します。